

全手中事務局だより

人材育成システム改革推進タスク

フォース（第一回）を開催

▼令和七年十一月十二日、文部科学省で人材育成システム改革推進タスクフォース（第一回）が開催された。

▼これは、十一月四日に設置された「日本成長戦略本部」において、「未来成長分野に挑戦するための大学改革、高専等の職業教育充実」について、高市総理から文部科学大臣にとりまとめの指示がなされたことによって、松本文科大臣が召集した。

▼このタスクフォース（一時的に編成された組織、チーム）は、高市総理の指示を踏まえ、高校から大学・大学院までを通した人材育成に関する課題を検討したうえで、方策をまとめることを目的としている。

▼検討事項として上げられている項目は次のとおりである。

①高校から大学・大学院までを通した人材育成システム改革のビジョンの策定について

②高校教育の振興について（高校教

育改革グランドデザイン（仮称）」の策定を含む）

③「知の総和」答申等を踏まえた高等

教育の改革について

④産学が連携した「※リ・скиリング・エコシステム」の構築について

※産業界や個人・教育機関などの多様

な関係者が連携し、変化するビジネス環境に対応するためのスキル習得を継続的に支援・循環させる仕組み

⑤「新技術立国」を担う科学技術人材育成・環境整備について

⑥文化・スポーツへの成長投資について

⑦その他の必要な事項

▼また、構成員は、政務三役からは松本文科大臣以下、中村文科副大臣、小林文科副大臣、清水大臣政務官、福田

大臣政務官、そのほか事務次官、文部科学審議官、各局長等二十二名で構成されている。

▼当面の進め方は、十二月中旬に第二回の大臣タスクフォースが開催され、その際には関係団体との意見交換が予定されている。

▼第二回の会合では、「高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン（仮称）」が示される。

その視点は次のとおりである。

（一）A.I.に代替されない能力や個性の伸長

（二）我が国の社会・経済の発展を支える人材育成

（三）一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保

▼さらに、年明けには、第三回の大臣タスクフォースが開催され「人材育成改革ビジョン（仮称）」（松本文科大臣プラン）素案の議論が予定されている。

▼その後、来年一月以降にその内容等は次のとおりである。

について「日本成長戦略本部」において松大臣によるプレゼンが行われた後、三月までには、第四回の大蔵タスクフォースが開催され「人材育成改革ビジョン（仮称）」の議論が計画されている。

▼これらの内容は、中学校に全く関係の無い事柄ではない。高校さらに大学や大学院の改革は、今後の進路指導にも関わる重要な内容となっていく。今後も、情報を確実に把握しつつ、議論の経緯を見守りたい。

「第二回副会長会」及び「新春座談会」を開催

▼十一月十四日、「第二回副会長会」が全日本中会館で開催された。今回の副会長会では報告事項として、当日、副会長会の前に開催された中間監査会について佐藤会計部長から報告があった。また、十月に開催された全日本研究協議会香川大会のアン

ケート結果について、中四国代表の須内副会長から報告がなされた。

一方、協議では（一）令和八年度第七回総会の日程及び「活動方針」「宣言・決議」について、（二）「基金拠出のお願い」について、（三）第二回基金管理運営委員会要項について、（四）第三回常任理事会・理事会について、（五）中学校教育八十年記念第七八回全日本中学校長会東京大会の研究主題について、（六）令和八年一月に開催される第二回基金管理運営委員会、第三回常任理事会及び理事会の協議内容等について検討がなされた。

終了後に「新春座談会」が開催された。ゲストとして文部科学省初等中等教育局教育課程課 武藤久慶課長を迎え、（1）次期学習指導要領の改訂を踏まえたカリキュラム・マネジメント、（2）「全日本中新教育ビジョン提言7『確かな学力』について各地区の取組状況の二点について、座談が進んだ。



詳細は本誌一月号で紹介される予定となっている。